

Title	逆接表現に関する日中対照一考察：逆接接続助詞「ノニ」に相当する中国語表現を中心に
Author(s)	王, 天保
Citation	大阪大学言語文化学. 19 P.111-P.125
Issue Date	2010-03-31
Text Version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/11094/77812
DOI	
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

逆接表現に関する日中対照一考察

—逆接接続助詞「ノニ」に相当する中国語表現を中心に—*

王 天保**

キーワード：ノニ、逆接複文、日中対照研究

本論文利用中日対訳資料庫實際考察日語當中表示轉折關係的接續助詞「ノニ」在翻譯成中文時所產生的對應關係。相較於日文，中文的轉折表現顯得靈活且複雜得多。從調查結果中發現，對應於「ノニ」的中文表現裡可分為使用接續表現的「有標識表現」和不使用接續表現的「無標識表現」2類。其中，「有標識表現」又可細分成表達複句間邏輯關係的「連詞」類，強調轉折關係的「連詞與副詞並用」類，以及表達主觀和感情的「副詞」類3種對應情況。此外，本次的考察亦發現「無標識表現」則與「ノニ」的「非從屬用法」有較高程度的對應性。

本文除了考察「ノニ」其中文的對應關係之外，亦從原文的意義，句型，文章技巧等觀點對各個與「ノニ」相對應的中文表現進行分析。以便釐清在什麼情況之下「ノニ」的譯句會出現接續表現或不使用接續表現？「有標識表現」當中，使用連詞或副詞又有何意義上的不同？並且確認調查結果中使用頻率較高的接續表現其所表達之意義為何及使用方式。

1 はじめに

本稿では、日本語の逆接関係を表す「ノニ」が、中国語でどのような表現に対応するのかについて考察する。日本語の複文では、節と節を繋げる際には接続詞の使用が義務付けられる。それに対し、中国語では文と文の接続に接続表現を使用する場合（有標識）と使用しない場合（無標識）がある。下例のように、「ノニ」を含む日本語の文が中国語に訳された際、(1)の「無標識表現」と(2)、(3)のような「有標識表現」の2種類の表現が考えられる。

(1) 知り合ってもう十年も立ったノニ、何でそんなに遠慮がちなの¹⁾？

(認識10幾年了，那麼客氣做什麼？)

(2) 空はまだ夜の色なノニ、山はもう朝であった。

『雪』

* 逆接表現之日中対照考察—以對應於逆接接続助詞「ノニ」的中文表現為主—(王 天保 WANG Tien Pao)

** 大阪大学言語文化研究科博士後期課程

¹⁾ 本稿で使われる例文は、特に記述がなければ著者による作例である。

(望見天空仍是一片夜色, 可是山巒已經微微發白了。)

【雪 1】

(3) 會議の時間になったノニ、會議室には人がいない。

(到了開會時間, 卻沒有人人在會議室裡。)

(1) の日本語の文は接続助詞「ノニ」が使用されているが、中国語訳には、それに対応する接続表現が現れない。つまり中国語では接続表現のない「無標識」の複文となる。これに対して (2)、(3) の「ノニ」は中国語訳文でそれぞれ中国語の「可是」「卻」と訳されていて、接続表現が用いられる「有標識」の複文となる。さらに「有標識表現」を細かく見ると (2) の接続詞と (3) の副詞という使い分けがある。

「有標識」複文と「無標識」複文はどう違うのか、またその使い分けはどのようなものなのか、などについての説明には、文の性質や構文などを考察する必要がある。

本稿においては、日本語の小説から逆接関係を表す表現として用いられる「ノニ」を含む用例を抽出し、それらの中国語対訳との対応関係を明確にする。また、複文の表現内容、構成要素、文章技法との関係などの視点から、その対応関係について分析を行う。

2 先行研究

2. 1 「ノニ」について

「ノニ」の用法について、国語研究所 (1951) の『現代語の助詞・助動詞』では、

「ノニ」は接続助詞と終助詞²⁾の二つの用法に分けられている。前者の接続助詞「ノニ」に関しては、以下のような記述が見られる。

(4) 意味内容の衝突する(食い違う)事がらを、対比・対照的につなぐ。予想と反対の結果に対する意外・不服の気持ちをこめて。逆説条件

この記述を、(5) に示した同書の「ケド」の用法と比較すると両者はほぼ同じ内容であるように思われる。

(5) 内容の衝突する事がらを対比的に結びつけ、前件に拘束されずに後件が存在することを表す。(既定の逆説条件)

しかし、同じ逆接を表す「ノニ」と「ケド」は意味の相違があると朴 (1988)、渡部 (1995) は指摘する。朴 (1988) は「ノニ」と「ケド」とはその論理的側面において特に違いがないが、「ノニ」によって表される逆接関係には様々な話し手の感情の表出を伴うという違いがあると述べる。この記述を具体例で示すと以下ようになる。

(6) P{ノニ/ケド}R

P から Q が予想 / 期待される {ノニ/ケド}、実際は R である (渡辺 1995: 559)

²⁾ 終助詞: 1 思わざる結果に対するあきらめ切れぬ不服な気持ち。希望の果たされぬうらみ。2 なじる気持ち、つめよる気持ち (希望・欲求をすてきれずに)。

(7) 薬を飲んだ{ノニ/ケド}、治らなかった。

P: 薬を飲んだら、Q: 病気が治ると予想される{ノニ/ケド}、実際では

R: 病気が治らなかった

(7) のように「ノニ」「ケド」は同じ論理枠組みを持っているにもかかわらず、「ノニ」文からは意外感が読み取れるのに対して、「ケド」文は必ずしもそうした感情は読み取れない。つまり同じ逆接を意味する語彙だが、「ノニ」は「ケド」に比べて、感情的な含意を伴う語彙であり、違和感、意外、不満などを表すのである。「ノニ」のこの性格は次の例からも窺われる。

(8) 空は今晴れている{??ノニ/ケド}、今日は天気予報によれば雨になるらしいよ。

(9) え、こんなに晴れているノニ、今日は雨になるの? (意外)

(8)、(9) ように「ノニ」は、意外や不満といった感情が伴わない場合、非常に不自然になる。また、従来からいわれているように、「ノニ」は意志、命令などの表現と共に起しない(雨が降っているノニ行こう??)といった後件に制約があるが、これも「ノニ」が意外や不満の感情を表す形式であるために生じる制約であると考えられる。

また、「ノニ」が繋ぐ前件と後件はかならずしも相反する事態を表すものだけではない。通常「PノニR」の論理構造から考えると、RはPの予想に反するものと考えられる。しかし以下の二つ用法ではRはPに相反する予想外の結果を表してはいない。

こうした用法の一つ目は、前田(1995)で、「非従属的用法における意外感の表出」の用法とされているものである。例えば(10)(11)で示すように「ノニ」で後件が省略されて、評価の文に結び付けられてしまうような文である。

(10) 一所懸命勉強したノニ、(不合格だった)。それは残念です。

(11) 一所懸命勉強したノニ、残念です。(前田 1995: 117)

二つ目は、家田(2004)、岡野(2007)で述べられている「さらに、その上」の意を表す用法である。家田(2004)では、これを「程度の高まりを表すノニ文」とする。その例が(12)であるが、この文における「ノニ」は前件(条件から結果)という関係に後件でもう一つ条件を加えることにより、結果の程度がさらに高まることを表している。これに対して岡野(2007)は(13)の「ノニ」の働きを「連続して起こるプラスあるいはマイナスの実態を結び付ける」とする。

(12) 雨に降られただけで災難だったノニ、転んでけがをしまって最悪だ。

(家田 2004: 128)

(13) スピード違反できのう切符を切られたノニ、また駐車違反で捕まった。

(岡田 2007: 75)

2. 2 本稿で扱う「ノニ」の用法

本節ではまず、これまでの先行研究を踏まえた上での本稿の立場を明確にする。本稿は朴(1988)、渡部(1995)の記述を支持し、「ノニ」の論理構造を(6)とし意外や不満といった感情の表出の有無が、「ケド」「ノニ」の意味の違いであるとする。しかし「ノニ」が「感情」を表すといっても、実はその強さの度合いは文脈によって差があることに着目し、この点から中国語の対応関係を考える。例えば(14)が表す感情は(15)より弱いと感ぜられるであろう。

(14) 太陽が出ているノニ、雨がぱらついてきた。

(15) あいつ、上司にはペコペコするノニ、僕にはいつもえらそうだ。

(14)では客観的な目の前の事実を、少しの意外性を感じつつ描写しているが、(15)では話者の不満が強く表出されている。このように「ノニ」の感情の表出には、強いものと弱いものがある。この感情表出の強弱が、中国語の対応表現の使い分けの基準となると本稿では考える(これについて5節の分析で述べる)。

また前件と後件は相反する事態を表さない「ノニ」の用法については、まず、前田(1995)の言う「非従属的用法における意外感の表出」を本稿では「非従属的なノニ」とし、「Pノニ(Rだということは)S」という論理構造を用いて6節で再検討する。

さらに「その上、さらに」の意を表す「ノニ」について家田、岡野、両氏はそれぞれ違う定義を用いて論じたが、二つの「ノニ」は「また」「さらに」と共起しやすく、「追加」の意味は共通するので、本稿では両氏が言う「ノニ」の用法を「追加のノニ」として扱う。以上のような立場から、本稿では感情を表す逆接の「ノニ」の他に、「非従属的なノニ」と「追加のノニ」も含めて、日本語の「ノニ」が中国語にどう対応しているかを考察³⁾したい。

3 「ノニ」に対応する中国語の表現

3. 1 中国語の接続表現と複文パターン

中国語では、日本語の接続表現と同じ機能を持つものを「関連詞」と呼ぶ。用語を統一するため、以下では「関連詞」を「接続表現」と呼ぶことにする。中国語の接続表現には「但是」のような接続詞性質のものもあるし、「卻」「還」などの副詞のものもある。たとえば、「但是」は日本語の「しかし」に似ていて、基本的には複文の帰結節の文頭、主語の前に置かれるという接続詞的な性質をもつ。こうした接続詞の役割は文節を接続

³⁾ ただし今回の研究対象は逆接複文に限定するので、以下の用法は考察から除外する。

A. 接続機能を表さない終助詞の「ノニ」(早く出発すればいいノニ。)

B. 「～場合に」を表す「ノニ」(地震が来るノニ備えておこう。)

C. 「～のために」を表す「ノニ」(北海道に行くノニ飛行機に乗った。)

するのと複文間の論理関係を示すことである。

(16) 我等了3個小時，但是 他 沒有 來⁴⁾。

接続詞 Sub Neg Verb

(3時間待ったが、彼は姿を現さなかった。)

一方、副詞にあたる接続表現は、常に主語の後ろ、主語が省略された（或いは主語なしの）動詞句、形容詞句の前に置かれる。こうした副詞にも接続詞のような接続機能があるが、論理関係を示す他に、話者の主観、感情などの意味を表すことも可能である。

(17) 我等了3個小時，他 卻 沒有 來。

Sub 副詞 Neg Verb

(3時間待ったノニ、彼は姿を現さなかった。)

また中国語の接続表現の組み合わせには、相原（1982）がいう四つのパターンがある。そして今回の研究対象である「ノニ」に対応する中国語表現をそのパターンにしたがってまとめると【表1】のようになる⁵⁾。

【表1】中国語逆接複文のパターン

接続表現のパターン	「ノニ」に対応する中国語表現	説明	標識の有無
(i) C + P, R	雖然 P, R など	条件節だけに接続表現が使われる	有標識表現 無標識表現
(ii) P, C + R	P, 卻 R など	帰結節に接続表現が使われる	
(iii) C + P, C + R	雖然 P 卻 R など	条件節、帰結節ともに接続表現を使う	
(iv) P, R	P, R (意合法)	接続表現を使わずに、語順で複文間の意味接続関係を表す	

「ノニ」に対応する中国語の逆接複文の類型には (i) 前件のみに接続表現を使用する場合、(ii) 後件のみに接続表現を使用する場合、(iii) “雖然 P 卻 R” のように、呼応しあう接続表現を用いる場合、さらに接続表現を使用せず、意合法⁶⁾によって節と節を繋げる場合、がある。意合法とは以下のような日本語では接続表現がないと不自然になってしまうような二つの文がそのまま繋がっているものである。

(18) 客棧的人都睡著了，哪兒弄來的？

【雪1】

宿で寝ちゃってる（ノニ）、どこから持って来た。

次章ではまず「ノニ」文は (i) (ii) (iii) の接続表現を用いる有標識表現と、(iv) の無標識表現にどう対応するかを検討する。さらに有標識表現でどのような表現に訳出

⁴⁾ 下線の所は複文の帰結節である。

⁵⁾ Cは接続表現、Pは条件節、Rは帰結節を示す。

⁶⁾ 文と文を組み合わせるのに、関連詞を使用せず、文の間の意味関係や論理などは主に語順を通じて表現するのを「意合法」と呼ぶ。趙恩芳（1998：66）

されるかを明らかにする。

4 調査方法及び調査結果

4.1 調査方法

調査資料は北京日本学研究中心『日中対訳コーパス』(2003)を用いる。その中から用例を抽出し、それらに対応する中国語の表現類型をまとめる。また二節で述べた「ノニ」の用法がそれぞれどのように中国語に訳出されているかについても観察し、検討を行う。ひとつの原作に対して複数の訳本を持つのはそれらすべてを参照した。作品のリストは【表2】の通りである。

【表2】 調査資料とする作品リスト

原作名		中国語訳本	
『坊ちゃん』	『坊』	【哥兒1・2・3】	【哥1・2・3】
『越前竹人形』	『越』	【越前竹偶】	【越】
『布団』	『布』	【棉被】	【棉】
『黒い雨』	『黒』	【黒雨】	【黒】
『野火』	『野』	【野火】	【野】
『青春の蹉跎』	『青』	【青春的蹉跎】	【青】
『雪国』	『雪』	【雪国1・2・3】	【雪1・2・3】
『砂の女』	『砂』	【砂女】	【砂】

【表3】 「ノニ」の中国語へ翻訳傾向

	有標識		無標識	合計
	接続詞	副詞、その他		
全体集計	75(31/44)	60	45	180
全体使用率1	41.70%	33.30%	25%	100%
全体使用率2	75%		25%	100%

4.2 調査結果

4.2.1 「ノニ」に対応する有標識と無標識表現の比率

『日中対訳コーパス』から抽出した調査資料を集計した結果を【表3】に示す。そこから、「ノニ」に対応する中国語表現において、接続表現を使用するものは接続表現を用いない無標識表現より遥かに多いということがわかる。有標識は全体の70%強を占める。次の分析では、どんな原文が有標識表現で訳されるか、或いは無標識表現になりやすいかについて検討する。

4.2.2 「ノニ」の訳文が有標識の場合

調査結果から観察した「ノニ」に対応する全ての中国語の表現を【表4】にまとめた⁷⁾。

⁷⁾ CIは接続詞が単独に使用される表現。CII接続詞と接続詞が呼応し合う表現。CIIIは接続詞と副詞が呼応し合う表現。CIVは前件或いは後件に副詞か他の品詞のみ使用される表現。

【表4】「ノニ」に対応する中国語表現一覧

連詞				副詞				無標識
C	番号	訳語	出現数	C	番号	訳語	出現数	出現数
I	1	雖然…	1	IV	1	明明…	1	45
	2	儘管…	1		2	並(沒)…	1	
	3	…但是	6		3	…卻	11	
	4	…然而	4		4	…竟	2	
	5	…可是	14		5	…就	8	
	6	…而	1		6	…倒	3	
	7	儘管…可是	1		7	…還	6	
II	8	雖說…可是	1		8	…也	3	
	9	雖然…但	2		9	…又	4	
III	10	…雖然如此卻	1		10	…怪	2	
	11	…但是竟	1		11	…卻又	1	
	12	…但還	1		12	…偏要	1	
	13	…但卻	4		13	…居然還	1	
	14	…可居然	1		14	…誰知	3	
	15	…可你倒	1		15	…結果也	1	
	16	…可偏偏	2		16	…結果竟	1	
	17	…可偏偏卻	1		17	…沒想到竟	1	
	18	…可是卻	8		18	…還為什麼	1	
	19	…可是即使這樣	1		19	都…還	1	
	20	…可是竟然	1		20	還…就	2	
	21	…而卻	2		21	又…就	2	
	22	…而竟	1		22	並…就	1	
	23	…然而卻	3		23	並…怎麼	1	
	24	雖然…卻	3		24	明明…卻	2	
	25	雖說…卻	2	合計			60	45
	26	雖然…還是	3					
	27	儘管…還是	1					
	28	儘管…但還	1					
	29	儘管…但卻	1					
	30	儘管如此…	1					
	31	既然…非要	1					
	32	既然…竟然	1					
	33	既然…難道	1					
	34	明明…可偏要	1					
	合計			75 (31/44)				

辞書、文法書⁸⁾などでは、日本語の「ノニ」は中国語の「但是」「卻」にあたるという説明がほとんどである。しかし実際には、「ノニ」は、「但是」「卻」だけではなく、多様な表現に訳される。【表4】によると有標識の対応表現の中で、論理関係を表しやすいと言われる接続詞の使用頻度は副詞などの表現とは大差がないように見えるが、接続詞類の中で接続詞、複数の接続詞が呼応する用法は31例で、接続詞と副詞の組み合わせが44例である。接続詞でもっとも使用頻度が高いのは「可是」で、続いて「但是」「然而」である。副詞では「卻」が11例あり、最も多く用いられる。それに次いで、「就」「還」「又」がそれぞれ4例、またはそれ以上の使用頻度が見られる。本稿は使用頻度4例以上の語彙を分析対象にして次の節で分析を行う。

⁸⁾ 小学館『日中辞典』、『日中辞典』；グループ・ジャマシイ『中文版日本語文型辞典』

5 分析

5.1 接続詞の「可是」「但是」及び「然而」

「ノニ」の中には複文前件に使われる「雖然」と、後件に使用される「可是」「但是」「然而」⁹⁾に訳されるものがあるが、これらの接続詞は複文の前後両事実の齟齬を表す語彙で、論理関係を示す説明文に相応しい接続表現と考えられる。(19)から(22)のような情況、場面の説明文に用いられる「ノニ」を中国語に訳す場合、「可是」「但是」がよく見られる。それはこうした説明文に使われる「ノニ」は感情表出より、前後文の論理関係を示すのに重点が置かれるためであろう。先行研究でも触れたが、「ノニ」は確かに感情を表す語彙であるが、その表出の度合いは文脈によって強弱の差がある。この強弱によって中国語の対応表現が変わってくる。例えば下例のような場面説明文に使われる「ノニ」は感情表出が弱いので中国語の接続詞と対応しやすい。

(19) 喜助はとみると、出張と夜業のつかれが出て、かすかな寢息をたてて睡りに入るはずなノニ、まだ寢息はきこえないのだった。 【越】

朝喜助看看，本以為他外出辦事又加了夜班，一定很疲乏，應該發出輕輕的鼾聲進入夢鄉了，但是玉枝沒聽見喜助的鼾睡聲。 【越】

(20) 十五日に家を出るまでは、どことなくむくんだような、それでいて、頬っぺたのあたりの肉がそげ落ちて生気がなかったノニ、いま見る肌は白雪のように艶を見せて光っている。 【越】

玉枝十五日那天離家之前，總有些浮腫，而兩頰的肉陷了下去，毫無精神。可是眼下的玉枝，皮膚雪白，還透著光亮。 【越】

(21) 空はまだ夜の色なノニ、山はもう朝であつた。 【雪】

a. 望見天空仍是一片夜色，可是山巒已經微微發白了。 【雪 1】

b. 天空還是一片夜色，但山上已是晨光熹微。 【雪 3】

(22) 月が砂丘の前景を、淡い絹の輝きでくるみ、風紋や足跡までもガラスの襞のように浮き立たせているというノニ、ここだけは、風景の仲間入りさえ拒まれ、ただむやみと暗いばかりである。 【砂】

月亮撒下絹綢似的淡淡火芒，籠罩著整個沙丘，連風紋和足跡都像玻璃皺褶似地浮現出來；然而只有這裡像是拒絕加入風景似地，只有伸手不見五指的黑暗。【砂】

5.2 主観、感情の意を表す「卻」と「接続詞+副詞」

日中辞書では、「ノニ」は「卻」に対応するというのが一般的な記述である。今回の調査結果では「卻」が単独使用の場合と他の接続表現と組み合わせるものを集計すると

⁹⁾「可是」「但是」「然而」は特に意味の相違がないが、「然而」はより文語的だと考えられる。

計 34 例あった。したがって「卻」に関する本稿の集計結果は基本的には辞書の記述に合致すると言っても良い。また先行研究で言った不可解、意外などの感情の意を強く表す「ノニ」の用法では、接続詞の「但是」「可是」より「卻」を用いた訳が多く見られるが、その理由として「卻」が話者の主観、感情を表す副詞である事が考えられる。

郭志良 (1999) によると、「但是」などの逆接接続詞は相反する事態を客観的に述べるのに使われる。それに対し、「卻」は逆接を表す副詞であると同時に話者の主観、価値判断を表す副詞でもあり、感情を表すことができる。そのために (23)、(24) のような意外、不満などの感情を強く表す「ノニ」の用法では、接続詞の「但是」「可是」より「卻」がよりその意味に合致する。

(23) 当人がもとの通りでいいと云うノニ延岡下りまで落ちさせるとは一体どう云う
了見だろ。 【坊】

人家本人説了照現在這樣不加薪也行，卻硬要把他發落到延岡去，這究竟打的什麼主意？ 【哥 3】

(24) 水の中の魚が死んで、大きな御影石の柱が飛び、壁が突き抜けるノニ、地上の人間が息災であるのは不可解でならなかった。 【黒】

水中的魚死掉了，花崗岩的柱子炸飛了，把牆都穿透了，地上的人卻平安無事，真是不可思議。 【黒】

しかし郭 (1999) の記述に従うと、「ノニ」は感情的な語彙であるので、「卻」に対応すると言えるが、「ノニ」は「但是」に対応するとは言い難い。これについて本稿は次のように考える。「ノニ」が感情を表しても、その感情の度合いは文脈によって差が見られる。したがって、前述した説明文に使われる「ノニ」は感情表出が弱く、中国語の接続詞に訳することができるのに対し、意外、不満などの感情の意を強く表す「ノニ」は「卻」に対応しやすいのである。

一方、接続詞、副詞の単独使用の他に、(25)、(26) の接続詞と副詞連用の例がある。まず「可是卻」について、接続詞の「可是」に副詞の「卻」が加わるという逆接機能を表す二つの語彙を重ねて使うことは逆接の意味を強調する一方、さらに「卻」によって不可解、意外などの意が表現されると思われる。「可是竟然」の場合、「可是」が逆接接続の役割を果たして、「竟然」が「意外なことに」という感情の意を表す¹⁰⁾。

(25) 駒子は自分のなかにはまりこんで来るのが、島村は不可解だった。駒子の全てが島村に通じて来るノニ、島村のなにも駒子には通じていそうにない。 【雪】
駒子為什麼闖進自己的生活中來呢？島村是難以解釋的。島村了解駒子的一切，

¹⁰⁾ 【竟然】：〔副詞〕意外にも、なんと（中日辞典：766）

可是駒子卻似乎一點也不了解島村。

【雪 1】

- (26) 今朝山の雪を写した鏡のなかに駒子を見たときも、無論島村は夕暮の汽車の窓ガラスに写っていた娘を思い出したのだったノニ、なぜそれを駒子に話さなかっただろう。『雪』

今天早晨當島村在映現山雪的鏡中觀望著駒子的時候，他當然也想起了在黃昏時火車的玻璃窗上映現的那個姑娘，可是為什麼他竟然沒有跟駒子講呢？ 【雪 2】

5. 3 副詞が用いられる場合、および副詞の「就」「還」「又」

接続表現としての副詞は、もともと逆接の意味が強いものと文脈によって付加的に逆接の意味が生じるものに分かれる。強い逆接を表すものは「卻」「竟」がその代表である。それに対して、文脈によって逆接の意を持ちうるものは、「就」「還」「又」「也」「偏」「並」などである。今回の調査結果から見ると「ノニ」に対応する副詞の「就」「還」「又」は比較の数が多い。以下ではこの三つの副詞の意味用法について見る。

- (27) a. 已經拚了命念書，卻沒有考上。(一所懸命勉強したノニ、不合格だった。)

b. ?? 已經拚了命念書，還沒有考上。

c. * 已經拚了命念書，就沒有考上。

d. ?? 已經拚了命念書，又沒有考上。

- (28) 出發時間快到了，他還在家裡磨蹭。

(出發時間が迫っているが、彼はまだ家でもたもたしている。)

- (29) 出發時間快到了，他卻在家裡磨蹭。

(出發時間が迫っているノニ、彼は家でもたもたしている。)

- (30) 不到十二點就吃了午餐。

(12時になっていないが、もう昼ご飯を食べた。)

- (31) 不到十二點卻吃了午餐。

(12時になっていないノニ、昼ごはんを食べた。)

- (32) 忙完這件事，又有別的麻煩事。

(これで一件落着だと思ったが、また他の厄介なことがある。)

- (33) 忙完這件事，卻有別的麻煩事。

(これで一件落着だと思ったノニ、他の厄介のことがある。)

(27) で示したように、「卻」はその語自体が強い逆接の意を持つ副詞であるのに対し、「就」「還」「又」はもともと逆接の意を第一義的に表す形式ではない。それぞれ限定された文脈でのみ、逆接の意が読み込まれる。例えば、「還」は日本語の「まだ」に当たる語だが、(28) では前件の条件が満たされるにもかかわらず、まだ後件の状態である、

という文なので「まだ」の意に加えて、逆接の意が付加的に生じる。(30)の「就」も、語彙としては逆接の意をもっていないが、前件の条件が満たされないにもかかわらず、後件は条件の達成がもたらされる結果になるという文脈から、逆接の意が生じる。また「又」も並列、添加の意味で、日本語の「さらに」「また」などにあたる語で、語彙自体にはやはり逆接の意は持っていない。追加を表す(32)では「ノニ」が「又」に対応することが見えるが、「又」の逆接の意も文脈によるものだと考えられる¹¹⁾。

そしてなぜ中国語の逆接複文で「但是」「卻」ではなく、これらの副詞が使われるかという、原文の細かな意味、ニュアンスを表現しようとするためだと考えられる。副詞のこの特徴は以下の実例でも証明されている。(34)から(37)までの例では副詞の「就」「還」「又」が使われている。これらの副詞はすべて逆接の意を表す「卻」に置き換えることができるが、細かい意味を的確に伝えようとする場合、副詞を用いた場合の方がより本来の意が伝わる。

(34) 来てから一ヶ月立つか立たないノニ辞職したという、君の将来の履歴に関係するから、その辺もう少しは考えたらいいでしょう。 『坊』

你剛來一個月就辭職，這關係到你將來的履歷。你還是好好考慮一下為好。【哥1】

(35) 母が死んで僅か半年にしかないノニ、父は榮子をうちに連れてきた。『青』
母親死了才半年，父親就把榮子領到家裡來。 『青』

(36) 六月が終わるノニ玉枝はこなかった。 『越』
六月底玉枝還沒來。 『越』

(37) 元からさ程強い酒量でないノニ、無闇にぐいぐいと呷ったので、一時に酔が発したのであろう。 『布』

他酒量本來就不是那麼大，這回又咕啣咕啣地使勁灌多了，所以酒性發作了。【棉】

5. 4 接続詞と副詞の相違

「ノニ」に対応する有標識表現の中には、「但是」「可是卻」「卻」のような接続詞を用いるもの、接続詞と副詞の連用、副詞を用いるもの、の三つのパターンがある。接続詞は、複文の論理関係を示し、説明文によく使われる客観的な語彙である。これに対し副詞は論理関係を示すほかに、不可解、意外などの感情の意を表したり、あるいは文の細部の意味を表現したりする際によく用いられ、より主観的、感情的である。

また接続詞と副詞がともに使われる場合もあるが、この場合、副詞は文の論理構造上

¹¹⁾ 但し、これらの副詞の逆接の意は文脈によって生じる付加的なものであるはといっても、これらの副詞があるからこそ、上記の文の前件と後件は自然に結びつくのである。その意味では、これらの副詞は接続詞的な役割を果たしているといつてよい。したがって、これらの複文から、副詞を消してしまうと非常に不自然になってしまう。

の必須の構成要素とはいえない。つまりこのタイプの文では副詞を除いても複文の接続関係に影響を与えずに文が成立させることができるのである。しかし、今回の調査ではこのような接続詞と副詞がともに使われるパターンの接続が、接続詞だけが使われるパターンを上回った¹²⁾。このように接続詞だけで逆接の接続関係が表せるのに、わざわざ副詞を加えるのは、意外の感情、或いは主観の意を表す必要があるためだと考えられる。接続詞だけが使われるパターンでは論理関係のみに焦点があたってしまうので、それに伴う主観、感情を表現したい場合には、接続詞と副詞が連用されるのである。

6 「ノニ」文に対応する無標識の場合

6.1 非従属的な「ノニ」と中国語の無標識表現

これまでは「ノニ」と中国語の接続詞、副詞との対応関係を述べてきたが、本節では「ノニ」が中国語の無標識表現にどう対応するかについて論じる。今回の調査結果における無標識の訳文について、前田(1995)が指摘した「ノニ」の非従属的用法が多く見られる。ここで前田が挙げた例をもう一度検討してみる。

(10) a. 一所懸命勉強したノニ、不合格だった。

已經拚了命的念書, 卻沒考上。

b. 一所懸命勉強したノニ、不合格だった。それは残念です。

已經拚了命的念書, 卻沒考上。真是可惜!

(11) 一所懸命勉強したノニ、残念です。(前田 1995: 117)

已經拚了命的念書了, 真是可惜!

「PノニR」¹³⁾という文型をとるもののうち、典型的なものは(10a)に示されるような意を表わすもので、P(=「一所懸命勉強したこと」)によって、Q(=「合格」)が予想されるが、現実にはR(=「不合格」)という構造をもつ。

更にこの「PノニR」に対して(10b)のように、表わされる事態に対する評価を表す「残念だ」という別の文Sが後接するパターンもある。この(10a)と(10b)を中国語に訳すと逆接を表す「卻」の使用が見られる。

(11)は、(10b)の構造から、Rの部分が省略され、Pの後件にS、つまり「残念だ」が直接後続する、「Pノニ(Rだということは)S」のような構造をもった非従属的な表現である。この例でわかるように、非従属的な「ノニ」は、帰結節は条件節と相反する意味を表すわけではない。日本語では「PノニS」のような複文において条件節と帰結節が相反する意味を表さないにもかかわらず、逆接を表す「ノニ」を使える。これに対

¹²⁾ 接続詞だけに關わる用法は31例で、接続詞と副詞の組み合わせが使われるのが44例。

¹³⁾ Pは条件節、Rは帰結節を表す。

して同じ「PノニS」という論理構造をもつ中国語訳文では殆ど「ノニ」に対応する接続表現は見られないことが今回の調査から明らかになった。これは中国語の「可是」「卻」は複文の前件と後件が「矛盾する」、「相反する」という逆接の意味が非常に強いからだと考えられる。そのため、中国語の複文ではPと相反することを表す後件Rがなくなってしまうと、「可是」「卻」などの後件Rでしか使えない矛盾関係を表す接続表現も使用しにくくなるのである。

したがって、複文の相反関係を表さない非従属的な「ノニ」は「可是」「卻」とは対応せず、(11)を中国語に訳すと接続表現不使用の無標識の表現がその訳として相応しい。(38)から(40)までの文は、すべてRが省略され、Sがそのまま後続している構造である。Rが省略されるので、したがってこの場合「可是」「卻」などの使用は見られない。

(38) 四五日すると、うちの婆さんが少々心配を始めて、奥さんのおおりのノニ、夜遊びはおやめたがええぞなもと忠告した。 『坊』

這樣過了四、五天，俺住處的老太婆開始為俺擔心。她忠告俺說：您是個有太太的人，最好別玩吧。 『哥2』

(39) もう直ぐに内祝言をあげるというノニ、どういうつもりなの。 『青』

馬上就要舉行婚禮儀式了，你打算怎麼辦？ 『青』

(40) 宿で寝ちゃってるノニ、どこから持って来た。 『雪』

a. 客棧的人都睡著了，哪兒弄來的？ 『雪1』

b. 旅館人們都睡著了，你從哪兒拿來的？ 『雪2』

c. 旅館人們都睡了，你從哪兒拿來的？ 『雪3』

6. 2 原文では接続表現が多用される場合

もう一つ「ノニ」文が無標識表現に対応するのは原文では接続表現が多用されている場合である。(41)のように、「ノニ」以外に「が」「て」などの接続表現が使われている場合、これを中国語に訳す時に、原文にしたがって「但是」「如果」などの接続表現を多く使うと、文の簡潔さが落ち、冗長な表現になってしまう。また(42)のような接続関係が複雑な複文である場合、日本語と中国語は語順の相違があることによって、日本語の語順を以って訳すとうまく中国語に訳せなくなってしまう。これらの場合の訳は、文全体の意味の自然さを優先して訳されるのが普通と考えられる。そのために複文を切って単文ごとに訳したり、語順を変えて訳したりする文章技法を用いて、接続表現を用いない場合も出てくるのである。

(41) 喜助は瞬間、玉枝が客をとることが出来るほど健康になったという喜びを感じたが、まだすっかり治ってもいないノニ、無理をして客をとったりして、いっ

そう病気をこじらすのではないかというふあんに耐えねばならなかった。『越』
喜助為玉枝已經健康得能夠接客而感到高興,但是喜助又想到,玉枝尚未完全恢復,
勉強接客的話,病不是更要加重了嗎!所以喜助無法擺脫不安的心理。【越】

- (42) 若いうちはよく腹の立つものじゃが、年をとってから考えると、もう少し我慢じゃあつたノニ、惜しいことをした。【坊】
年輕人好動氣,上了歲數再想想,就會後悔,當初還是耐著性子為妙。【哥1】
人總是年輕的時候容易動火,可是等年紀大了一想,就會後悔,就會想:再忍一忍就好啦。【哥2】

7 まとめ

本稿は対照研究の一環として、「ノニ」に対応する中国語表現を考察した。「ノニ」に相当する中国語の表現は接続表現を用いる有標識表現と接続表現を用いない無標識表現の二種類がある。さらに前者は接続詞によるもの、接続詞と副詞の連用と副詞によるものに分けられる。「ノニ」文が説明文の場合、複文間の論理関係を説くことに重点が置かれ、感情の表出が重要ではないため、接続詞「但是」などに対応する場合が多い。一方、「ノニ」文が、感情的含意を強く持つ場合、「卻」などの副詞が使用される。接続詞は論理関係のみを表すので、副詞という別の要素によってその感情を表す必要があるのである。また、中国語の無標識表現と「ノニ」の非従属的な用法は高い対応度が見られる。さらに接続表現が多用される場合、訳文の自然さを求めるため文章技法によって接続表現が省略されることもある。今回の考察では、「ノニ」に対応する中国語の表現を明らかにしたが、より体系的な形にするためには、各接続表現に関するより詳細な意味分析が必要と考えられる。例えば「就」「還」「又」「也」「並」などの副詞、それぞれが表す逆接の意味はどんな違いがあり、その使い分けはどのようなものか。これらを今後の課題としたい。

【主要参考文献】

日本語文献：

- 相原茂 (1982) 「中国語の複句」『講座日本語学 11 外国語との対照Ⅱ』、明治書院、pp.240-258。
家田章子 (2004) 「ノニ文における条件・結果の階層化と用法」『言葉と文化』5、pp.119-135。
岡野ひさの (2007) 「いわゆる逆接のノニは何を表すか」『日本語文法』七巻一号、東京：

- くろしお、pp.69-86。
- 国立国語研究所（1951）『現代語の助詞・助動詞－用法と実例－』、秀英出版。
- 朴丹香（1988）「接続助詞「けれども（が）」と「のに」の意味と用法」『国語学』152、pp.101-113。
- 前田直子（1995）「逆接を表す「～ノニ」の意味・用法」『東京大学留学生センター紀要』5、pp.99-123。
- 渡部学（1995）「ケド類とノニ」『日本語類義表現の文法（下）』、くろしお出版、pp.557-564。
- 中国語文献：**
- 郭志良（1999）『現代漢語轉折詞語研究』、北京言語文化大學出版社。
- 趙恩芳等（1998）『現代漢語複句研究』、山東教育出版社。